

今までの授業

- ・ 繰り返し学習することで基礎・基本の定着を目指している。
- ・ 習熟度別学級による授業を実施している。
- ・ 必要に応じて I C T を活用し、イメージ化の一助にしている。
- ・ 力のある生徒には導き方が多数ある演習を用意し興味関心を引き出している。
- ・ 定期的に問題集を提出させることで家庭学習の定着を目指している。

今回の調査結果

第 1 学年

授業アンケートの結果では、「学習の目的がはっきりしているか」という項目では、肯定的な意見が100%近くであったが、「自分の考えを伝え合う授業が行われているか」では、97%前後であった。

第 2 学年

授業アンケートの結果では、すべての項目で94%を超える結果となっていた。

第 3 学年

全国学力調査の結果は、全国平均48.3点、都平均53点のところ、53点であり全国平均を上回った。観点別では、知識・技能と思考・判断・表現の両方とも全国の平均を超えることができた。

課題

第 1 学年

分数や少数を含む計算や、割合の計算ができない生徒が見受けられる。また、思考力・判断力を問う問題では、問題内容を把握することや、それを整理して考えることに課題がある。

第 2 学年

思考力・判断力を問う問題が苦手であり、問題内容を把握することや、それを整理して考えることに課題がある。

第 3 学年

知識・技能の平均点は都立の平均を下回ってしまった。思考・判断・表現のを育む指導は継続しつつ、知識・技能の定着も図る必要がある。

授業改善の具体的な方策

第 1 学年

【授業を改善すること】

生徒の学習状況に合わせ、じっくりコースでは教科書の基本的な問題を解く力を、しっかりコースでは思考力の向上を図る。特にじっくりコースでは、学習意欲が低かったり、苦手意識をもっている生徒も見受けられるので、きめ細かく個別に指導を行ったり、近くの生徒同士で話し合い学習を行わせることで、基礎学力や学習意欲の向上を目指す。また、その中では、問題を解いた過程や、計算結果などを話し合わせ、問題を解いていくために必要な、思考力・表現力も身に付けさせる。

第 2 学年

【授業を改善すること】

生徒の学習状況に合わせ、それぞれのコースに応じた指導を行っていく。基礎的な内容を扱うコースでは教科書の基本的な問題や例題を解く力をみにつけさせる。応用的な内容を扱うコースでは、計算の応用問題だけでなく、文章問題を解くことで思考力の向上を図る。また、状況に応じてそれぞれのコースで発表させる機会を与えるなどして、主体的に学習に取り組む態度を養う。

第 3 学年

【授業を改善すること】

生徒の実態に合わせ、それぞれのコースに応じた指導を行っていく。基礎的な内容を扱うコースは教科書の基本的な問題を解く力を、応用的な内容を扱うコースは思考力の向上を図る。また、全国学力調査の結果では、割合に関わる問題の正答率が低かったため、学習の中で割合の概念を扱う度に、復習ができるようにする。